

桂精機製作所の1980～1990年代

品質と安全の両立 環境商材への挑戦

経済が成熟し、その影響下で起こったLPガス業界史上最大の事故、そして、厳しい目が向けられるようになった環境問題。時代の大きな変化の波を受けることで、現在に続く礎を築くことになります。

カツラの成長を支える山梨工場

1966年に竣工した山梨工場。業容の拡大とともに作業面積が狭くなってきたため、1987年に新工場を建設。150坪ほどだったのが、平面500坪の3階建てで1,500坪の大工場へと生まれ変わった。1階が部品加工機械工場、2階と3階は組み立て工場を配置した。その後、1998年には平面385坪を擁する前処理、塗装、ダイカスト部品加工を行う工場を敷地内に増設。さらにその後、2000年には737坪の物流センターと一部工場を増設し、現在に至る。

安全性の追求、ヒューズガス栓の開発へ

1983年、LPガス業界史上最大の事故として語り継がれている「つま恋事故」が起こる。リゾート施設内のレストランでの爆発事故で、17名の死者と27名の負傷者を出した。原因は多数のバーベキュー用コンロのゴム管を外したままコックを閉め忘れていたことだった。ガス供給の安全を守るべき立場である供給機器業界が騒然となったことは、いうまでもない。これを機に、当時、都市ガスが先行して使い始めていたヒューズガス栓の開発、生産に至った。

安全・安心をつくるのは環境づくりから

ガスは身近で便利な一方で、危険性をはらむものであるからこそ、ガスを供給する機器の製造・販売においては何よりも安全設計を第一に掲げてきた。業界トップシェアを誇る供給機器生産の拠点である、山梨工場生産量アップはもちろん、時代とともに変わる事業内容や規模に合わせて環境を見直し、徹底的な設備の合理化を今なお推進。高品質な製品の生産体制の維持・確保とコストダウンに成功している。



▲ 1966年に建設された山梨工場は、須玉町第一号の誘致工場だった



▲ 製品づくりはもちろん、カタログやチラシでも「安全」を全面にPRするようになる

▲ 安全機能付きのヒューズガス栓と地震対策機器のガス放出防止型高圧ホースは、カツラの主力製品のひとつ



▲ 新工場内は、設備のオートメーション化が飛躍的に進んだ

信頼 と 安心の証

2000年には品質マネジメントシステムに関する国際規格であるISO9001を取得し、2002年には、国土交通省指定性能評価機関の評価を受け大臣認定工場に。安心・安全を最優先にして歩み続けることで、企業としての安心感と信頼度をさらに格上げすることができた。



省エネルギー、エネルギー有効利用の道を開拓

1970 年代から公害問題や環境問題が表面化しはじめ、1980 年代では、地球温暖化や生物多様性の減少などの影響を受け、環境問題が世界共通の話題となった。

ガス焚きであること、空気を介さず直接加熱できること、そして、スポット暖房に適しているため省エネ効果が期待できるとして、1983 年に遠赤外線燃焼器の製造販売を開始した。これは、前年に創業者がパリの空調展を見学した際に、その場でガスインダストリー社（仏）と遠赤外線暖房機の特許と日本の総代理店の契約を結んで実現したもの。

この当時、会社として空調分野への本格参入はやや消極的だったが、ゴルフ場や体育館等の空調の効きづらい大空間のスポット暖房、遠赤外線の利点を生かせる乾燥用熱源に絞って注力した。

遠赤外線暖房機「ほか暖くん」

環境に配慮した製品も続々登場。
冷媒にフロンではなくアンモニアを
採用したガスチラーヒーター、
炭酸ガスの発生が少ない
遠赤外線タイプの暖房

遠赤外線暖房機
「ほか暖くん」



礎を築くこととなる環境商材への取組み

1990 年に入ると、世界的に環境問題に向けられる目がますます厳しくなり、フロンガス規制が打ち出された。1992 年には、イタリアのロバー社と冷媒にアンモニアを採用したガスチラーヒーターの製造販売の独占契約に成功。しかしながら、環境面では評価できるものの、原価が高つくことからほどなくして撤退へ。

翌 1993 年には、資源エネルギー庁の委託を受け、GG エアコンの開発に成功。フロン規制に対して、アンモニアと臭化リチウムを冷媒に採用した LP ガス焚きのエアコンの開発を LP ガス振興センターが決定。当社がアンモニアを担当し、日立製作所株が臭化リチウムを担当して、3 年ほどかけて完成させた。最終的に商品化には至らなかったものの、こうした環境商材への意欲的な取り組みにより技術の蓄積ができ、現在の製品づくりの礎となっている。



▲ 業界誌でも度々取り上げられた、カツラの環境配慮型の事業への想い



▲ ガスインダストリー社の
ドゥベルジャー社長（左）
と創業者

▲ ロバー社のグレア社長（右中）と、創業
者と社長（左中、左）

ロゴに込められた カツラの想い

現在のロゴは、1988 年の本社移転と同時に一新したものです。顧客第一主義をモットーに「SIS 運動（安全[Safety]・情報[Information]・奉仕[Service]）」に取り組む企業のイメージ向上に役立つものとして作られました。カツラの頭文字「K」をモチーフに、左側の 3 本線で SIS を、V に見える部分は新分野に挑戦し、世界に伸びる勝利（VICTORY）を表現。基調となるスカイブルーは SIS をイメージしたコーポレートカラー、ワンポイントの三角の赤は炎に賭けるカツラの情熱を表現しています。



社章の遍歴

